



三原の未来に挑むリーダーの育成

浮城塾

研究開発課題: 地域経済の活性化と持続的な成長をめざした人材育成について

本研究の特徴

- 三原市と県立広島大ビジネス・スクールとの連携
 - 地域をマネジメントできる人材育成の方法と体制の確立を目指す
 - 三原市の活性化と持続的な成長に关心を持つ参加者を具体的に募る
- カリキュラムや教育手法の開発と実証授業
 - 教材、カリキュラム、運営体制の開発と実証を進める
 - 具体的な教育効果と課題を確認
 - 平成30年度以降、独立事業として自立した運営を目指す

2018年6月末に第2期開塾(三原地域連携推進協議会+地元NPOが事務局)

2



市民経営塾という選択

- 佐賀県「ビジネススクール鳳雛(ほうすう)塾」特定非営利活動法人鳳雛塾
SAGAベンチャービジネス協議会(97年、佐賀銀行、佐銀ベンチャーキャピタル、佐賀県地域産業支援センター、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会)および佐賀大学寄附講座が母体となり99年に若手起業家育成を開始。05年にNPO法人化。慶應大学SFCの飯盛義徳教授(慶應ビジネス・スクール卒)が中心的に活動。
- 高知県「土佐まるごとビジネスアカデミー(土佐MBA)」商工労働部 雇用労働政策課
- 石川県「石川経営天書(てんしょ)塾」商工労働部 産業政策課
- 石川県(小松市)「こまつウーマンマネジメントスクール」経済観光文化部 商工労働課
- 滋賀県(大津市)「大津・草津地域マネジメントスクール」産業観光部 商工労働政策課
- 群馬県「ぐんま実践マネジメントスクール」公益財団法人群馬県産業支援機構
- 中小企業庁→中小企業の人材育成支援策の見直し
 - 中小企業基盤整備機構、中小企業大学校(東京校、関西校、瀬戸校、広島校など全国9ヶ所)」
 - ビジネス・スクール型高度実践カリキュラム開発 → ケースメソッド活用

コミュニティ、チームワーク、協働・実践 → 所属・立場を超えた「学びの場」

3



主要な研究成果

- 平成29年8月「浮城塾」の第1期生を公募
 - 地元企業や商工団体の経済人をはじめ市議会議員や市職員など多様な27名が参加
 - 本年3月末までに計16回(8日間)の授業を月次開催
 - プロジェクト科目では、1.シニア人材活用と地域活性事業の開発、2.自治体における街づくりの意思決定改善、3.廃校を活用した新ビジネスの実証、4.社内起業家育成のための組織づくり、の4テーマに分かれて取り組んだ
 - 地元企業のケース教材開発(2件、八天堂:マーケティング・組織)
 - 修了生ネットワーク形成のため同窓会を発足
- 第2期開講準備(パンフレット、ウェブサイト等制作)

第2期のイノベーション創発授業、自立運営に必要な機器等を調達



「浮城塾」募集概要

- 募集定員

- 毎年度30名程度を予定。応募者多数の場合には、参加者の選抜を行うことがあります。

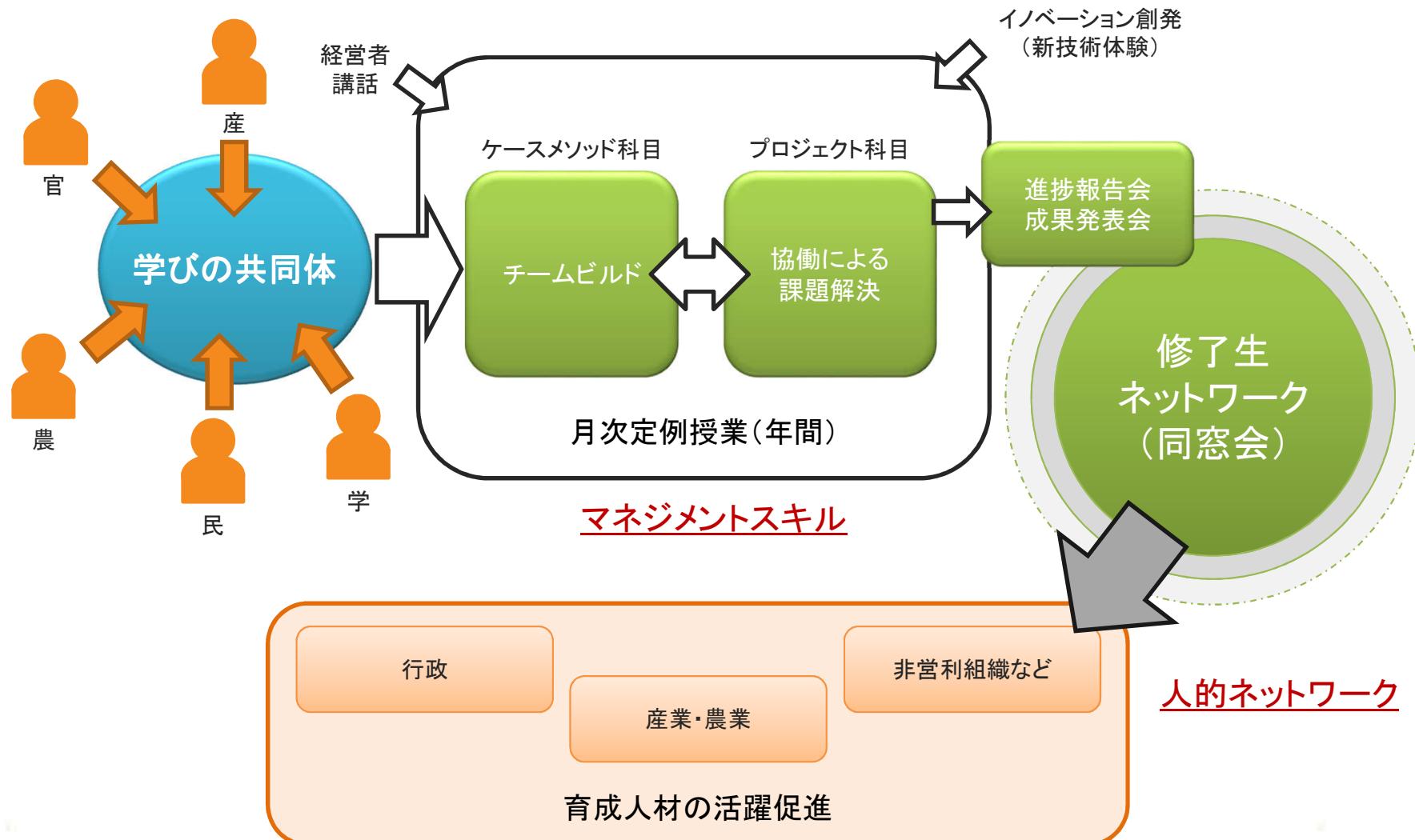
- 応募要件

- 三原市の将来を担う若手経営者や経営者候補の方、三原市により良い未来づくりに貢献する意欲のある三原市に在住・在勤の方。20代～40代の男女を想定。ただし、三原市在住でなくとも、三原市を良くしようという意欲のある方の参加を排除するものではありません。
 - プログラム全体を通じて8割以上の授業への出席と、授業日以外でのチームによる協働プロジェクトに積極的に参加できることを応募要件とします。

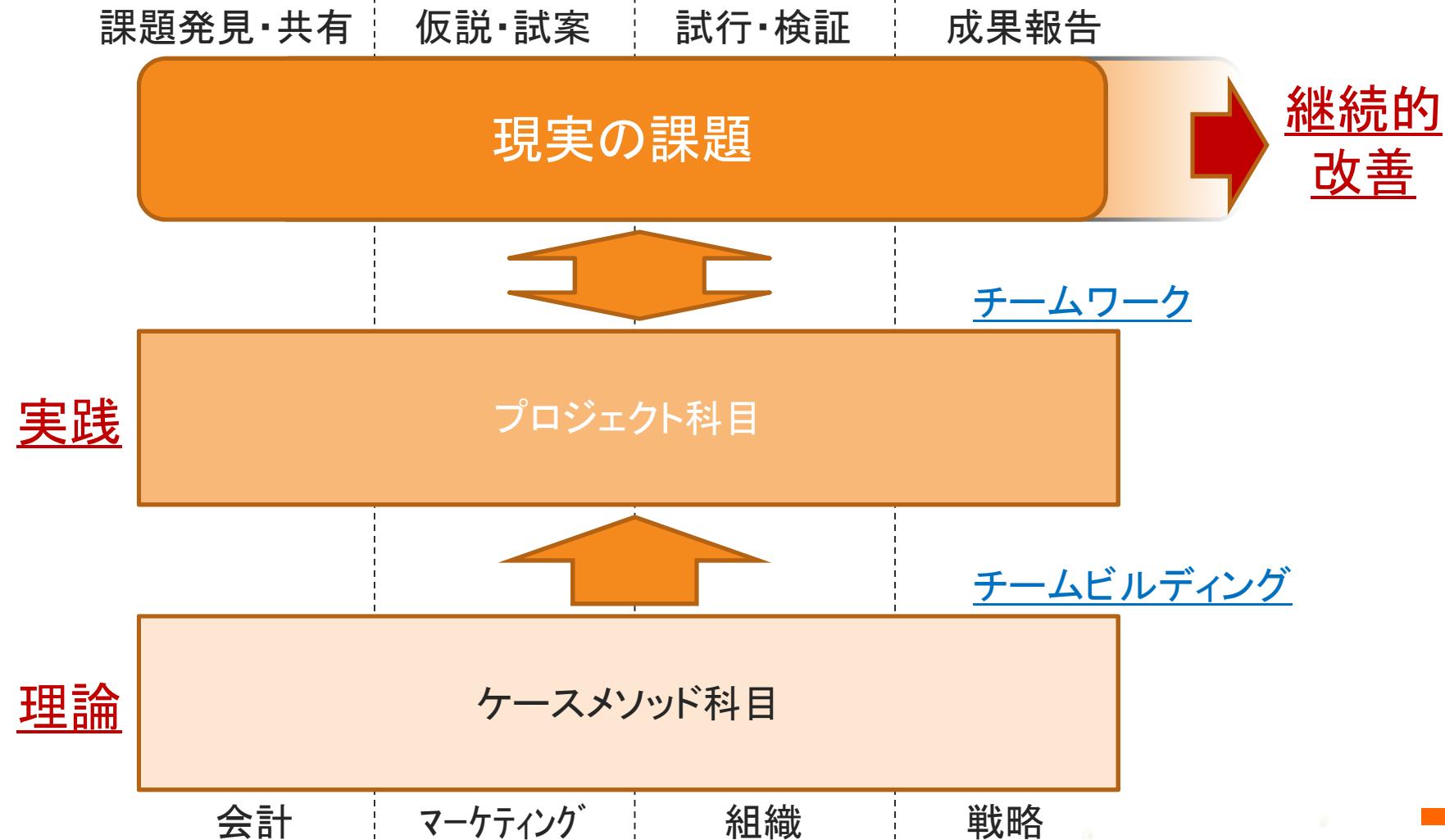
この募集概要にもとづき、三原市役所からの働きかけにより参加者を公募



目的:三原の未来に挑むリーダーを輩出



どうやって目的を実現していくか？



開講実績

日程	理論編(10:00～12:30)	実践編(13:30～16:00)
8月25日(金)	開塾式(18:30～)	
① 8月26日(土)	オリエンテーション	グループワーク準備
② 8月27日(日)	経営意思決定	課題発見
③ 9月30日(土)	財務会計	課題共有
④ 10月28日(土)	管理会計	仮説・試案
⑤ 12月 9日(土)	マーケティング	<u>中間発表会</u> 68日間(10週)
⑥ 1月27日(土)	経営戦略	試行・検証
⑦ 2月24日(土)	組織・人材マネジメント	継続的改善策
⑧ 3月24日(土)	<u>成果発表</u>	<u>成果発表</u> 102日間(25週) 修了式(16:00～)

理論編(7回)の討議、実践編(6回)の演習、中間発表・成果発表を実施



第2期(2018年度)開講スケジュール

開催日	理論編(10:00-12:30)	実践編(13:00-16:00)
6月30日(土)	オリエンテーション	グループワーク準備、 入塾式
7月 1日(日)	経営意思決定	課題発見
7月28日(土)	財務会計	課題共有
8月25日(土)	管理会計	仮説・試案
9月29日(土)	イノベーション創発(1)	中間発表
10月27日(土)	マーケティング	MVP(最小稼働物)の試行
11月24日(土)	経営戦略	MVPの制作
12月15日(土)	ファイナンス	仮説・試案の改善
1月26日(土)	イノベーション創発(2)	MVPの検証
2月23日(土)	組織・人材マネジメント	継続的改善策
3月23日(土)	成果発表会	成果発表会、修了式

イノベーション創発の授業を、[一期生との協働](#)により、2回開催する計画



アドバイザー紹介(招聘講師)

- まちづくり

- 伊藤伸氏

- 政策シンクタンク(一社)構想日本 総括ディレクター
 - 元国会議員秘書、内閣府行政刷新会議事務局参事官。事業仕分けの第一人者。法政大学非常勤講師、NPO法人NPOサポートセンター理事。三原市事業レビュー・コーディネーター。



- 組織づくり

- 佐藤庸平氏

- 2011年慶應ビジネススクール、ESSECビジネススクール(仏)ダブルディグリー取得。デニム生地製造(岡山)のシンヤ(株)取締役、福山在住(株)なんで代表。浮城塾ケース教材開発専門委員。



外部有識者の知見により、成果の質を引き上げる試みを実施

10



コース修了からが本当の「浮城塾」

- 修了生は、同窓会に登録とともに、同窓生どうしの引き続きの協働に加え、修了生と現役生との協働や相互支援のための機会を積極的に提供していく予定です。また、必要に応じて、行政からの市民参加に対する要請に対して、修了生ネットワークからの紹介を目指していきます。
- 同窓会
 - 修了生による自立した自治的な同窓会を目指します。県立広島大ビジネス・スクールも同窓会と協力して、修了生と現役生との定期的な交流の機会を提供していきます。
- 交流の機会
 - 現役生による進捗報告会への参加や、定期開催の授業へのオブザーバー参加、講師への個別相談、同窓会メーリングリストへの情報発信、現役生へのプロジェクト課題提供、現役生のプロジェクトへの協力などにくわえ、同窓会の年会費を原資とした同窓会の企画セミナーやイベントの実施・参加、自治体や他団体とのイベント等への協力などを想定しています。

学習成果 → 何を学んだかよりも、誰と、何を変えていくのか





変わり続けるために、大人が学ぶためには？

学び続けること

大人の学びの3条件

- **主体性**を約束する
 - 受身の授業では、学びの生産性が落ちる
- **現実物**をあつう
 - 抽象度の高い話では、関心が薄れる
 - 現実の多様な、入り組んだ、生々しさに関心が高まる
- **発話**をともなわせる
 - 対話からフィードバックを受けて、自分で気付くと燃える

高木・竹内(2006)

経営者の学びでも、3つの要素 → 学習の効果に大きく影響

13



ケースメソッド授業

- 討論型学修

- 講義型

- 長い時間を通じて、人間が蓄積してきた事実
 - 効率よく、手短に、概観・伝授する

Dewing(1931)

- 討論型

- 日々変遷する環境のもと生じる新しい問題
 - 対応する態度を養うべく、訓練する

参加者中心

- ケースメソッド授業

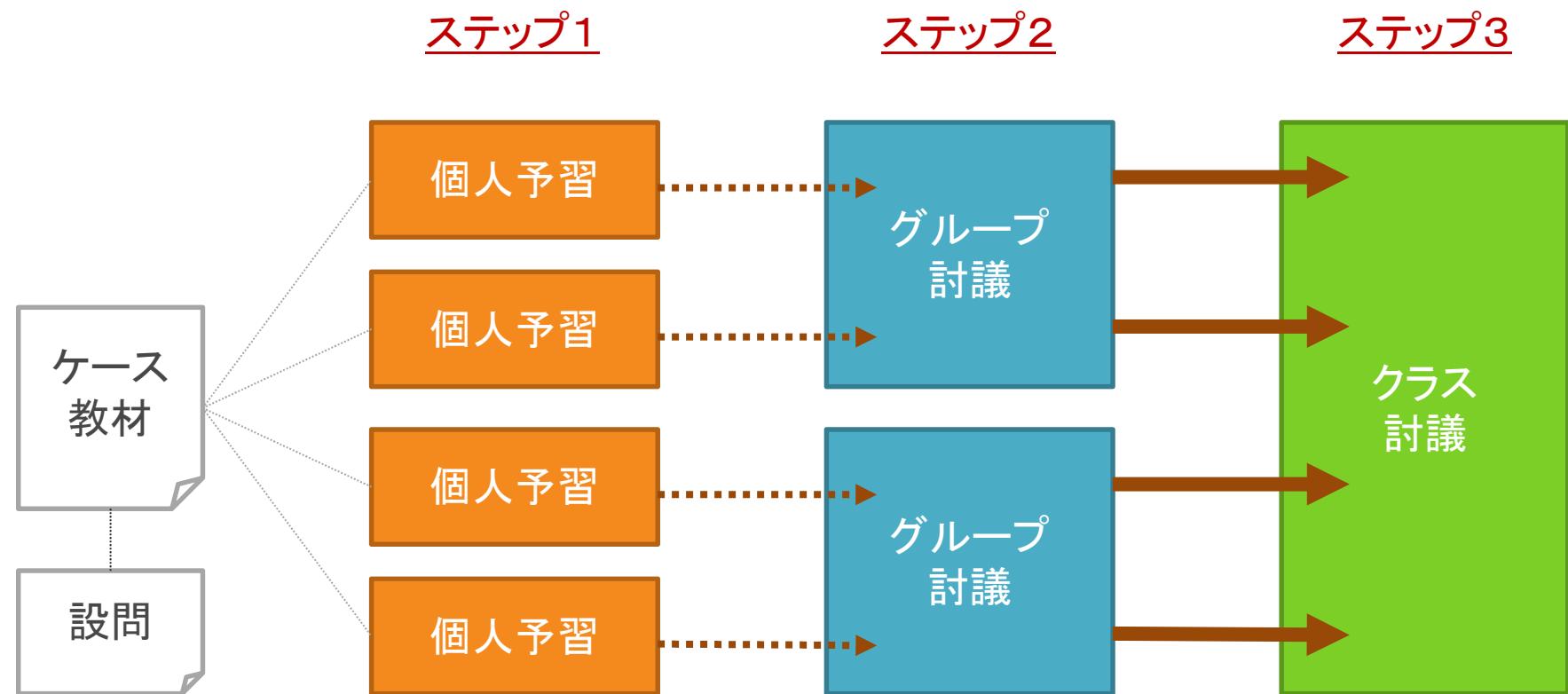
- 米国ハーバード・ビジネス・スクールが考案した授業方法
 - 講師は講義せず、参加者同士の討議から学びあう

問題を見つける→対処法を検討→意思決定→実行する態度・能力の涵養

14



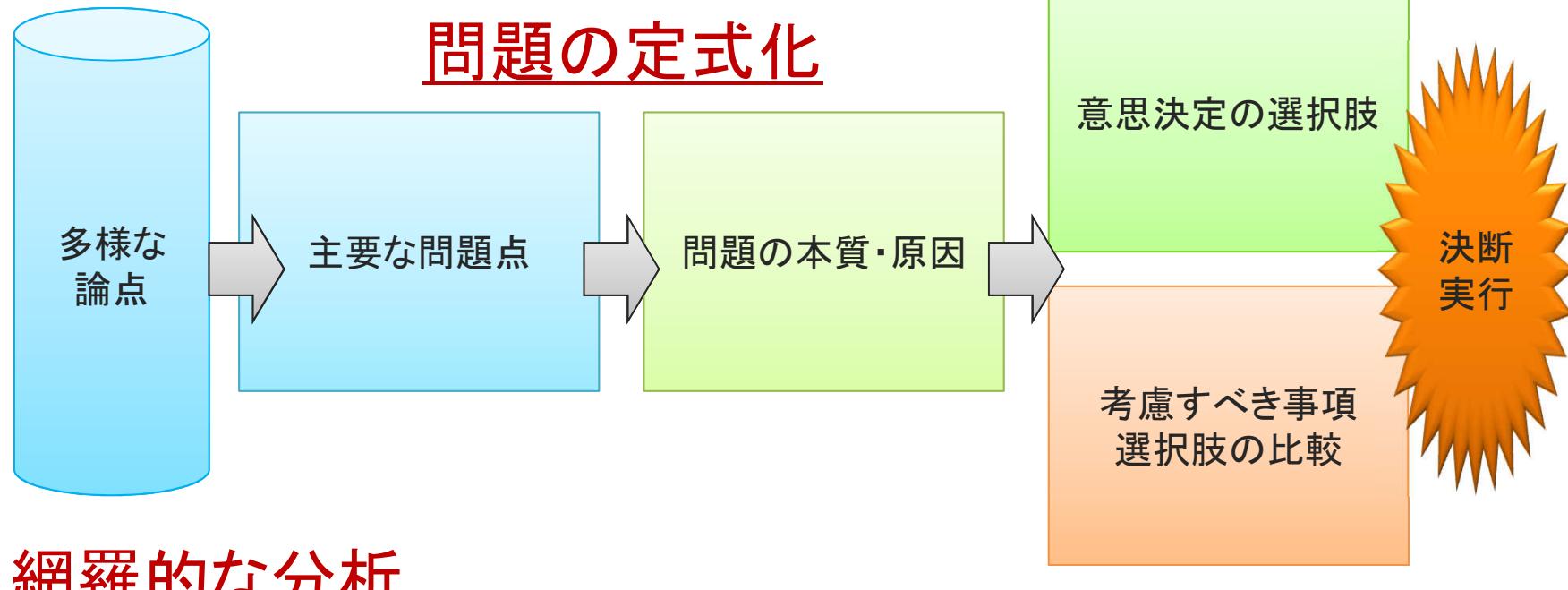
ケースメソッドの進め方



まず自分で考え、グループで考え、全員の考えを聞き → 自分の考えを磨く

意思決定のトレーニング

ケース教材
(仮想現実)



網羅的・体系的に考えて、決断・実行する、「態度」と「技能」

トレーニング効果の最大化

- 主人公として考える

- 時間軸にそって、断片的な情報を整理する
- 実施に起きていることとして、推測し、詳細に考える
- その状況から、問題を見つけ、自分が解決する！

- 発言は、絶対に重要！！

- 自分の考えを、言葉にする
- 外に向かって表明し、その手応えを確かめる
- 他者の思考プロセスに刺激を与える

他者の発言(アウトプット)ではなく、他者の思考・観点(プロセス)から学ぶ



このコースで大切にしたいこと

- 学びの共同体

- 「チカラ」の学びを実現する「温かな学習装置」

- 協働作業

- 他者の学びに貢献する、他者の発言・考え方から学ぶ
 - 講師も、ディスカッションリードの役割をもったメンバー
 - 発言する「勇気」、互いを尊重する「礼節」、他者の発言を受け入れる「寛容さ」

